

とちぎ義博 議会レポート

第24号 2004年 夏号

発行者: 福岡市議会議員 栃木義博

〒814-0001 福岡市早良区百道浜1-3-13-305
TEL.845-7669 FAX.845-8511
E-mail:tochigi@bronze.ocn.ne.jp

ホームページを開設しました
http://www11.ocn.ne.jp/~tochigi/



住民が育てる
校庭の芝生
東京・和泉小学校

芝生ふわふわ気持ちいい

とちぎ義博は、校庭の芝生化事業の先進校で知られる東京都杉並区立の和泉小学校を6月29日に視察しました。ちょうど2年生による芝刈り中で、「ふわふわして気持ちいい」と子どもたちの評判も上々でした。また、芝生の養生に住民の協力が得られたことなど、芝生化事業の地域コミュニティづくりに果たす効用について、同校の野本厚子校長に話を聞きました。福岡市でも校庭の芝生化事業に向けて百道浜小学校(早良区)と西陵小学校(西区)をモデル校に指定。校庭の一部を使って芝生の生育実験や本格導入後の管理、養生の方法について検討を重ねています。



「地球規模で考え、地域で行動しよう」と、ラブアース・クリーンアップ2004が6月13日、市内の主な海岸や河川、山などで実施されました。シーサイドももち会場には近隣住民、企業従業員や家族連れが参加。とちぎ義博も地元の百道浜住民200名の皆さんと一緒に汗を流しました。

楽しかった 浜風バスツアー

恒例となった、とちぎ義博・浜風バスツアーは5月16日、初夏の長崎・ハウステンボスを満喫しました。といっても朝から降り続く雨に、参加者からは恨み節も聞かれましたが、入国後はその雨に助けられ各施設が貸切り状態に。参加者がそれぞれに小さな思い出を土産に持ち帰った小旅行となりました。



西鉄マリエラ・博多湾クルーズ

とちぎ義博・浜風のつどいを秋分の日(9月23日)に博多湾船上で開きます。楽しいひとときをお過ごしください。とちぎ義博の市政報告をメインに企画も盛りだくさん。

- 出航** 2004年9月23日(木・祝) 午前11時30分
ベイサイドプレイス博多埠頭
(備航/午後1時30分 なお、悪天候の場合は会場変更もあります)
- 受付** 午前10時30分より(乗船開始11時15分)
ベイサイドプレイス博多埠頭
第1ターミナル 水槽前
- 問合せ** 西鉄マリエラ予約センター
TEL.751-7171(担当角)
- 参加費** 参加費/5,000円
参加費には飲食代を含んでいます。なお、この集いは政治資金規正法第8条の2にもとづく政治資金パーティです

下記にご連絡ください。チケットと振込用紙を送付いたします。
申込先/ふくおか都市環境研究会(代表 栃木義博)
TEL.711-4736 FAX.732-4055(議会控室)
TEL.845-7669 FAX.845-8511(事務所)
Eメール tochigi@bronze.ocn.ne.jp



長峰秀鷹さんのご冥福をお祈りします。



とちぎ義博後援会・代表幹事の長峰秀鷹さんが、さる3月31日に食道がんのため亡くなられました。57歳の若さでした。長峰さんと、とちぎ義博は、1997年の「福岡の都市づくりと交通を考える会」発足時からともに歩んできた仲間、市議選初出馬の折には、とちぎ義博後援会の立ち上げから出てくれた、いつも人を中心に据えた、おらかな理念があり、それを行動に移すスケールの大きな人でした。専門のデザインを切り口に、人を大切にする都市創造運動の旗手でもありました。各分野の関係者が長峰さんの今後を期待を寄せていた、まさにその時に去つてしまひ、ほんとうに残念です。ご冥福を心よりお祈りいたします。
(福岡市議会議員 栃木義博)

7月の参院選挙で争点となった改正年金法をめぐっては多くの疑問が残されたままです。改正された年金制度は、将来の日本社会の姿と国民の暮らしを左右するものですから、選挙が終わったこれからも国民的な議論が必要です。そこで、九州大学教授の福留久大さんに、改革すべき年金制度の理念と国民の暮らし方や日本社会の未来像について聞きました。

安心社会の未来像を築けるか —年金改革と日本人の生き方を考える—

(橋木)先の国会で強行採決された改正年金法が今年10月から施行されます。
(福留)国民年金、厚生年金とも保険料が大幅にアップすることは知られたところです。いっぽうで、年金の給付について「現役世代の50%を確保する」とした政府の説明については、受給開始後すぐに5割を切るため、嘘だということが指摘され、年金制度の信頼性は大きく崩れてしまいました。しかも、改正年金法の成立要件であった出生率が予想を大幅に下回ったことも法案採決後に明らかになりました。この年金制度は近く破綻すると言わざるを得ません。

「世代間の助け合い」税負担で信頼回復を

(橋木)年金制度は私たちが将来にわたり安心して暮らすためのセーフティネットであると思うのですが…。
(福留)年金制度が民間の保険と違う点を注目してほしい。保険料の支払い額と年金受給額との比較に焦点があてられた捉え方は一面的です。年金という制度は、例えば、若者の祖父母の暮らしを年金で支えることで、父親母親の子育てを楽にするという世代を超えた効果もある訳です。年金は世代間を助け合う制度なのです。
(橋木)破たんの明らかな今の年金制度をどのように改めるべきだとお考えですか。
(福留)将来的にも安心感があり、信頼される年金制度にするためには、もっと税金による負担を増やすべきです。【図 国民負担率の内訳の国際比較】を見てください。日本の国民負担率は極めて低いほうです。政府が国民の生活を保障する責任の負担割合に応じて、スウェーデンの「最大限保障責任政府」、ドイツ、フランスの「補完的保障責任政府」、アメリカと日本の「最低限保障責任政府」に分類できます。日本の政府は、イラク多国籍軍への参加や有事法制など治安活動については熱心です。しかし、国民の生活保障については、近頃きわめて不熱心ですね。

政府は生活保障の確固たる責任を示せ

(橋木)年金の信頼性を取り戻すために税負担を増やすべきだと指摘されましたが…。
(福留)そうですね。ただ、すぐ増税するというものではありません。国内の金融資産は1,300兆円あります。国民一人当たりですれば、1,000万円を超えます。私たちの生活実感とかけ離れた大きさです。端折った言い方になりますが、ある所にはあるんですよ、巨萬の資産所得が。日本の税制は、とり易い給与所得の源泉徴収中心で、きちんと課税されない所得が沢山残っているということです。1963年に14

万人だった警察職員は、2000年で23万人です。税務職員は、国と地方合わせて、1963年は13万人でした。2000年でも14万人にすぎません。これでは税務調査一つにしても、決定的に不十分です。脱税天国を放置している訳です。税は、社会の共通費なのです。公平な税制を築いて、国民の生活保障を受け持つという確固たる責任を示す政府でなければなりません。この基本姿勢を確立すれば、不安定な保険料負担ではなく、欧州諸国に見られる租税負担を軸にした社会保障が機能してきます。いまの年金財政は税中心に移行すべきだと考えます。その財源は法人・個人を問わず所得税であるべきです。所得税を社会保障に入れ込むことのほうが説得力はあります。



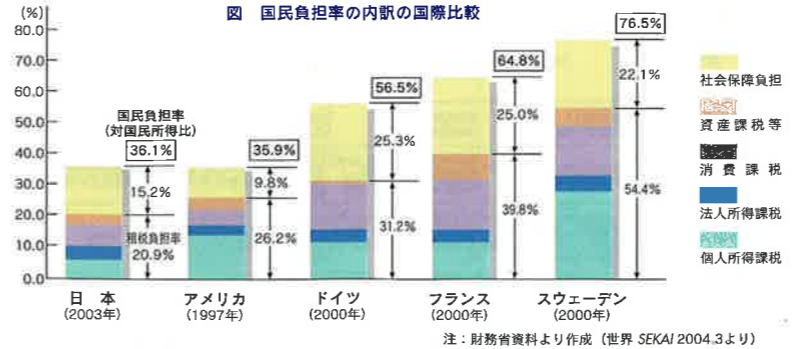
福留久大さん

欧州型社会の選択が望ましい姿

(橋木)年金問題の出てくる根っこはどこにあるのでしょうか。
(福留)高齢化社会の問題に目を奪われがちですが、年金問題の背景には、少子化の問題があります。少子化をどのように食い止めるかが鍵を握ります。若い世代が結婚し、子育てのできる環境を整えることが、政府のもっとも大切な役割です。日本人の働き方、働き方にも問題があります。少子化はサービス残業の結果、若い人びとの社交の機会、つきあいの場がなくなったせいとも言えるのかもしれない。
(橋木)誰もが安心できる日本社会の未来像をどのように展望されますか。
(福留)いま日本の姿は欧州型とアメリカ型の中間を揺れ動いています。市場原理による徹底した競争を活力源にしてきたアメリカ的な社会をめざすのか、それとも地域連帯を基盤に福祉国家を目指すヨーロッパ的な社会をめざすのか、迷いのなかにありますね。そのなかで、小泉内閣の「民活」路線=日米同盟路線は、アメリカ的競争社会へ傾斜を深めているでしょう。賢明な選択とは、とても思えません。

「スローライフ」の意味を考えたい

(橋木)これまでの働き方や生き方を見つめなおす時代だと言われていますが、これからの私たちの暮らし方はどのようにあるべきだと思いませんか。
(福留)環境問題は市場の膨張が自然環境を侵すとき発生します。年金などの社会保障問題は、家庭や地域・職場の相互扶助により支えられてきた社会=共同体が市場原理に巻き込まれて弱体化したところから発生します。そもそも、共同体に支えられて市場が成り立っているのですから、そういった社会を大切にしたい生き方が必要です。わたしは、職場や地域での繋がりによる仲間意識を持った生き方が、長い間農耕に携わってきた日本人には相応しいと思います。そのためには、意味のある労働を、利利的でなく落ち着いた生き方をすべきです。軽工業品を輸入して高度技術製品を輸出する—そういう中国経済との関係を見ると、日本には高度な技術に裏付けられた高度な労働こそが求められると思います。当然視されているサービス残業は日本社会の成長に繋がっていませんし、そのストレスの社会にもたらす影響は多大です。流行語になった「スローライフ」という言葉の意味をちゃんと考えたいものです。



■ 福留久大(ふくとめ ひさお)さん
*九州大学大学院経済学研究院教授 *福祉政策分析講座、政治経済学担当
*主な著書『資本と労働の経済理論』(2003年九州大学出版会)、
『新ふるさとバス白書』(監修執筆、1998年技報堂出版)
*1941年生まれ、鹿児島県川内市育ち。64年、東京大学経済学部卒業。70年より九州大学教養部助教授、85年に同教授、94年経済学部へ配置換え、現在に至る。
*福岡の都市づくりと交通を考える会会長

☆ボランティアの皆さんを募集しています☆ この議会レポートをご町内やマンションに配布するご協力をお願いいたします。(ご連絡 845-7669)